

子供と環境(四)

山下 俊 郎

四、環境と子供とは如何に結びつくか

いま、でわたくし達が環境について考へて來たいものゝ問題は、環境といふものが教育上さうして大事に考へられる様になつて來たかと言ふ事にしても、或は環境をさう考へるかといふ事にしても、また遺傳と環境との關係をさう考へるかといふ問題にしても、いづれも子供と環境との關係を考へるに當つて、先づ考へて置かなければならない一般的な問題であつた。そこでわたくし達は、さういふ環境が子供に對してさういふ意味を持ちさういふ影響を與へるかといふ事を態々具體的な問題として考へなければならぬ。また考へてもいゝのであるが、もう一つ考へて置きたい問題がある。わたくし達が子供と環境といふ事を考へる場合の問題は結局の所、子供と環境との關係である事には違ひないのであるが、さういふ環境が子供とさういふ關係にあるかといふ事——具體的に言へば家庭といふ環境が子供にさういふ影響を與へるか、都會といふ環境が子供にさういふ響いて來るかと言ふ様な問題——に入る前に、一般に言つて、環境は子供とさういふ關係にあるか、環境が子供と結びつくときにはさういふ結びつき方をするかといふ事、これをわたくし達は一通り考へて置き度いのである。そして殊に幼児の場合にはさういふ點が特に氣をつけられなくてはいけないかといふ事を少しばかり考へて置き度いと思ふのである。

x
x
x
x
x

環境が子供に對して結びついて來る結びつき方、言葉を簡單にする爲に、わたくし達はこれを環境關係といふ言葉で現はしたいと思ふ。わたくし達は普通環境が子供に強い影響を持つてゐるといふ風に言ふのであるが、環境關係といふものを少し細かに考へて見るにそこには色々の環境關係がある事に氣づく筈である。

先づ最初にわたくし達の氣のつく事は、一口に環境の影響と言つても、その環境が子供の心に映つてゐる場合、子供の心には全然映つてゐないが矢張り強い影響を及ぼしてゐる場合がある事である。前の場合は子供が環境を意識してゐる場合であり、後の場合は子供が環境を意識してゐない場合である。普通わたくし達は環境の影響といふときは、後の場合即ち子供が無意識のうちにうける影響を非常に重大視してゐる。これは一面から考へるにまことにその通りであつて、昔は環境を教育を對立させて考へ、教育といふのは教育者が子供に——或は子供の意識に——積極的に働きかける力であつて、環境といふのは子供が無意識のうちに受ける影響であるを考へてゐたのである。幼ない子供程この無意識のうちに受ける影響は大きい。それは子供はこゝにいふ結びつき方で最も強く環境と結びついてゐるからである。それは自分の方から環境に働きかける力がないからであつて、環境の方で與へる影響通りになつてゐるからである。環境を心の中に映さない働きは、環境に働きかけるといふ働き方の最初の出発點であつて、少し心が成長して來ないにこの働き方が出て來ないのである。こゝにいふ無意識のうちに影響を受けるといふ環境關係を、わたくし達は環境影響といふ言葉で現はす事にしたい。こゝにいふ環境影響に對して、さきの子供の意識に環境が姿を映す場合の環境關係をわたくし達は環境體驗と名づけた。環境に對して子供が感じる一つの體驗だからである。環境體驗といふ場合には、環境が子供の心に映つた場合、言葉を換へれば子供が環境を意識する場合の意識の仕方が問題になつて來るのである。このやうな環境影響と環境體驗とが全然違ふ環境關係である事は言ふ迄もない。こゝに一の例を採つて見やう。例へば或る一人の子供のお母さんを子供の

環境の一要素として考へて見やう。このお母さんが非常に甘いお母さんである場合に右の事をあてはめて考へて見るに、その事情がはつきりする筈である。甘いお母さんは子供の嫌がる事は一切しない。萬事子供の言ひなり放題になる、たゞ世間から見てしてはいけない事であつても甘いお母さんは子供の御機嫌を損ねる事を恐れて、子供のしたい様にさせる。こゝにいふお母さんは子供自身の心に映つたお母さんとしては、自分の言ふ通りにしてくれる「いゝお母さん」である。つまり環境體驗としてはいゝお母さんなのである。ところがこのお母さんは子供の日常の行動に無意識のうちに——こゝにいふより子供の意識する範圍の外に於て——影響するお母さんとしては、子供が我が儘だと言つて家庭の外の先生やお友達から排斥される様な行動をさせるお母さんとして働いてゐるのである。即ちこのお母さんは環境體驗としてはいゝお母さんであるが、環境影響としては誠に好ましくぬ影響を與へるお母さんなのである。こゝにいふ風に考へるに、環境體驗と環境影響とは全く相異なる環境關係である事が考へられなければならないのである。即ちもう一度くり返して言ふならば、環境關係としての環境影響は子供の意識しない影響であり、環境體驗は、子供の意識を結びつけた環境關係である。幼兒に於ては環境體驗といふものは比較的貧弱であつて、環境關係としては環境影響の方がすつゝ大きい。だから環境影響が非常に大事ではある。然し幼兒だからと言つて全然環境體驗がないのではない。立派にある。そして環境體驗にこそ子供を導いて行く導き方の根本の態度が定められるべき芽生えをわたくし達は見る事が出来るのであるから、環境體驗も亦決して輕視する事は出来ないのである。

× × × × × × ×

右に述べた様な環境體驗と環境影響は、所謂物的環境であつても、人間的な環境であつても同じやうに當てはめる事が出来る。然しわたくし達が、特に環境の中の人間的要素だけに眼をつけるに——人間的要素は非常に大事なものである——

またそこに違つた環境關係を考へなくてはならなくなる。

子供の環境の中に在る人間と子供との關係は、要するに人々との關係であり、社會的な關係である。社會的な關係の中で子供を眼中に置き、子供の心の成長を眼中に置くとき、最も大事な關係を持つものは模倣と暗示である。模倣も暗示も、子供と、子供の環境中に在る人間との關係であり、この人間の子供に與へる影響であるから、この二つは紛れもなく環境關係である。

模倣は先づ無意識的な模倣となつて現はれる。一人の子供が泣き出すと他の子供が何となく泣き出すといふのは、よく赤ん坊の生活に見られる事であるが、これは一つの無意識的な模倣である。この様な模倣は従つてさきの環境影響の一つとも考へられるが、模倣の場合には環境の中の人間のみが及ぼす影響だといふ事、模倣される人間の行動も模倣する子供の行動も、全く同じ形であるといふ違ひがある。この二つは環境影響には必ずしもない事である。この様な意味の模倣は、幼児の環境關係としては非常に大事なものである。例へば毛蟲を怖がる母親の子供が必ず毛蟲を怖がる、神質な親の子供が必ず神質になるといふやうな事は、全く環境關係としての模倣によるものである。吃り見たいなものゝ場合でも模倣は餘程大事な役割を演じてゐる言はれてゐる。然し模倣は右の様な單なる無意識的な模倣だけに限らない。例へば子供が言葉を覚えやうとする時期に見られる模倣、また子供が日常生活に見聞きする色々な事柄をやる所謂何々ごつこの遊びに見られる模倣のやうな場合にはもはや無意識的な模倣でなくて、子供の方に模倣しやうとする意志が働いてゐる。が、模倣はやはり子供の環境關係としては、環境中の人間の行動がそのまゝの形で子供の方へ移つて行くといふ點に於て大事な環境關係である事には變りはない。殊に幼児の生活に於ては模倣といふ働きが非常に活潑に働くので非常に大事なものである。

暗示の場合には、模倣のやうに全然同じ形式の行動が環境中から子供に移つて行くといふ事は見られない。然し或る一つの心構へが乗り移るのである。「あなたはライオンですよ」言はれると、恰もライオンになつた見たいな氣持になる。これが暗示であり、ライオンになるといふ一つの心構へが、子供の方にひき起されるのである。幼児の生活に於ては暗示が非常に大きな役割をつとめる。或る學者は暗示にかゝり易いといふ事は、幼児期の心の最も大きい特徴の一つであると言つてゐる。この暗示の場合には、子供にはその環境中の人に對する意識はある、然しそれによつて動かされてゐる言ふ意識はないのである。これは模倣の場合でもさうであるが、この點に於て暗示も模倣も環境體驗と違ひ、また環境影響とも違ふといふ事が言へるのである。

× × × × ×

右のやうにして、環境關係を色々見て來ると、わたくし達は一般的に言つて環境關係のうちに、環境影響、模倣、暗示、環境體驗の四つのタイプを區別する事が出来る。そしてこの四つの關係は、幼兒の生活に於ては、いづれも大事なものであるが、ミりわけ環境影響、模倣、暗示の三つの關係は殊に重要である事を注意したいと思ふのである。然しこの事は勿論環境體驗が無視されてもいゝ言ふ意味ではなく、環境體驗も亦、その芽生えの意味に於て大事である事を考へて置きたいのである。

× × × × ×

環境の問題を考へる時に、一般的な問題として考へなければならぬ事は、まだ残されてはゐるのであるが、わたくし達はこゝで一般的な問題を一先づ切り上げて、具體的な問題に入つて行き度いと思ふ。具體的な問題としては、家庭的環境、都會、田舎、貧困兒童の環境の問題を漸次考へて行く事にしたいと思ふ。(未完)